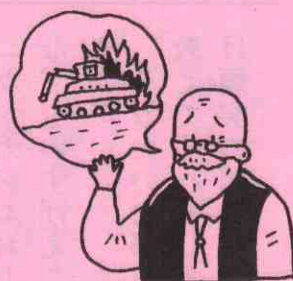
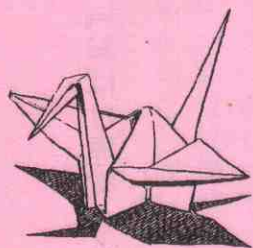


平和特集

森のひろば

75号

2007年 8 月発行 宇佐市民図書館



『地雷ではなく花をください』

より 一部抜粋

文・柳瀬房子

絵・葉祥明

自由国民社 刊

地雷というのは土の中に埋められて、踏むととっぜん爆発する爆弾なんですよ。

地雷はね、もともとは、となりの国から攻めてこられないよう、国境にそって埋められたものなの。

道路や橋にも埋められていて、なかなか街まで近づけないようにするために用いられました。

ちかごろ、カンボジアや旧ユーゴスラビア、パレスチナ、アンゴラといった国々には、戦争が終わっても多くの地雷がそのままになっています。

それが世界中に一億一千万個。このため一時間に三人がどこかでなくなったり、大けがをしているんです。

山にも野原にも、田や畑にも、学校の校庭にだって地雷はたくさん埋められて、もう、どこに埋めたか、埋まっているかわからなくなっているのです。

また、かんたんには見つけることも取り除くこともできないのです。

1945年8月15日。日本は終戦を迎えました。多くの方が犠牲になった戦争でした。それからは、争いを起こさず、巻き込まれることもなく、日本に住む私たちは平和に暮らしています。

けれど、世界中の国では、争いはおこっているのです。そして終わったとしても、その傷跡はいたるところに残っているのです。

地雷もその一つ。その傷跡が消えてしまわないかぎり、本当の意味で争いは終わったとはいえないのです。そのために、自分ができることをよく考えてみてください。



『おぼけ煙突のうた』

より あらすじ紹介

早乙女勝元 原作

理論社 刊

○ガンちゃん夢

一九四四（昭和十九）年夏。

東京・足立区に（おぼけ煙突）という名で、みんなに親しまれていた、ひし形にならんだ、四本の煙突がありました。煙突は、見る場所によって一本にも二本にも、三本にも見えたので、そう呼ばれていたのです。

その煙突を見ながら、二人の少年が話をしていました。一人の名前は足立頑太——ガンちゃん。もう一人の名前は早瀬勝平——カッチンです。

「カッチンよお！ おれ、ゆんべな、ものすげえことを思いついたんだ」

「そういいながら、ガンちゃんは教えてくれました。それは、おぼけ煙突の間にロープをはって、滑

車をつけて、かごをつるして、そのかごにのって、東京を真下に見るといふものでした。

「カッチンよう。人間、できそうもねえことやらなきやあ、おもしろかねえぜ。夢が……でっけえ夢がなきやあよ！」

「夢かあ……」

「素晴らしいながら、二人で一緒に、煙突を見上げました。」

○いつか本当に

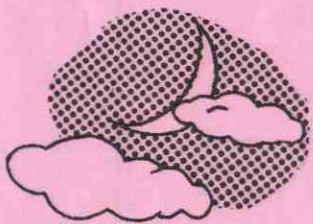
このころは、学校も街も、日本という国のすべてが戦争一色でした。男の子のゆく道は、軍隊しかないような時代です。そんななか、ガンちゃんとカッチンは仲良しで、いつも一緒でした。

ある日の朝、学校へ行くとき、う、ガンちゃんがいいものを見せやると言って、カッチンの手をひいてかけだしました。ついたところは、鉄工所の裏の空き地。そこは運河に面していて、両岸に赤さ

びた大きなクレーンが、河をまたいでいました。

ガンちゃんはクレーンに近づくと、支柱に結んであったロープをほどこき、はしをつかみました。これで一気に河を飛び越えようとしたのです。ガンちゃんはターザンのように河に向かって飛び出しました。しかし、勢いがなくなり、河の真ん中で止まってしまいました。慌てるカッチンの前で、ガンちゃんはおそろしく強い力をだして、ロープを登っていきました。そして、そのままクレーンの上によじのぼったのです。

その姿を見ていたカッチンは、ガンちゃんなら、本当におぼけ煙突にロープをはって、空を渡るのかもしれないと思いました。



○おぼけ煙突としばらくの別れ

戦争が日まじりにきびしさをましてきたとき、カッチンたちは学童疎開をすることになりました。敵からの襲撃をさけるために、田舎へいくことになったのです。

出発前のある日、二人はおぼけ煙突のところに行きました。

「おーい、おぼけ煙突ーう、しばらくお別れだけだよーお！ 空襲にあつても、敵の弾なんかにあたるんじやねえぞお！ 元気でいろよーお！」

まるで煙突に話しかけるかのよう、ガンちゃんが大きな声で叫びました。

疎開先での生活は、決して楽なものではありませんでした。

六年生になった二人は、進学のために東京へ帰ることが決まり、すぐく喜びました。戻りの列車の中でおぼけ煙突を見つけ、まだ無事だったとガンちゃんとカッチンは大はしゃぎ。

「ワァー、おぼけ煙突だあ！」

「やった、やった！ 東京に帰ってきたぞーっ！」

○すべて火の海に

2人が帰ってきた、その日の真夜中のことでした。アメリカの爆撃機の大編隊が、東京を襲ったのです。家々はすさまじい炎につつまれ、あつというまに周囲は火の海になっていきました。

「おぼけ煙突、だいじょうぶかな」

「平気さ。おぼけ煙突あ強んだ！」

「素晴らしいながら、カッチンとガンちゃんが必死に逃げている、そのときです。なんと、ガンちゃんのお母さんに、焼夷弾が当たり、あつという間に火だるまになってしまったのです。」

「カ、カアチャーン！」

ガンちゃんは叫びながら、火の海に走って行ってしまいました。思わず追いかけようとしたカッチンをお父さんが止めました。気が

ついたとき、カッチンは救護所の床に寝かされていて、心配そうにのぞきこむ、家族の姿がありました。東京は、何もかも焼けてしまっていました。でも、そのなかで、おぼけ煙突だけはびくりともしていませんでした。

それから、何日待っても、ガンちゃんが帰ってくることはありませんでした。けれど、おぼけ煙突へ行ったカッチンは、そこにロープをはって煙突を渡る、嬉しそうに笑うガンちゃんの姿を、確かに見た気がしました。

よかったなあ、ガンちゃん。夢が、かなってさあ……。



8月の特集

戦争・平和



『白い町ヒロシマ』

木村靖子

『デイゴの花』

桜井信夫

『かわいそうなぞう』

つちやゆきお

『絵本 火垂るの墓』

野坂昭如

『ちいちゃんのかげおくり』

あまんきみこ

『マアを返して下さい』

わしおとしこ

『おとなになれなかった弟たちに』

米倉斉加年

『まちゃんと』

松谷みよ子

『象のいなくなった動物園』

近野十志夫

『ごめんね、おかあさん』

荒木正夫

『お星さまのレール』

小林千登勢

『ヒロシマの歌』

今西祐行

『はとよひろしまの空を』

大川悦夫

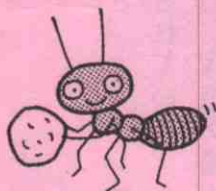
『けんちゃんとしせんせい』

高木敏子

(ほかにもたくさんあります)



先月号の答
① まくら
② そうじ
③ れいぞうこ



ほんの森号は夏休みでも
学校に来ているよ！
ぜひ、遊びにきてね！



うさしみんとしょかん
宇佐市民図書館

〒879-0453 宇佐市大字上田1017-1

でんわ 0978-33-4600

ファックス 0978-33-4679